

注 意 報

各関係機関の長 殿

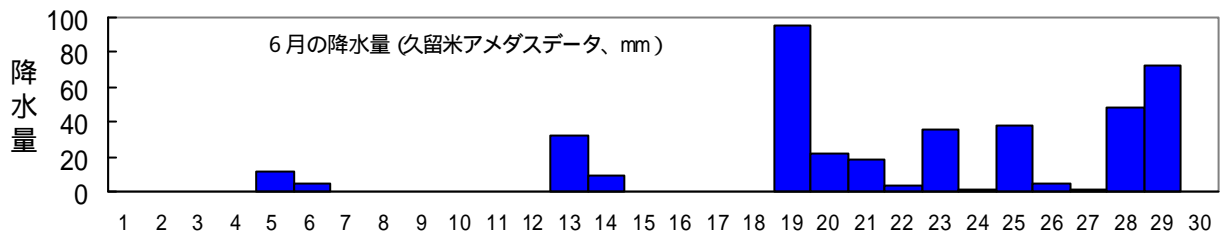
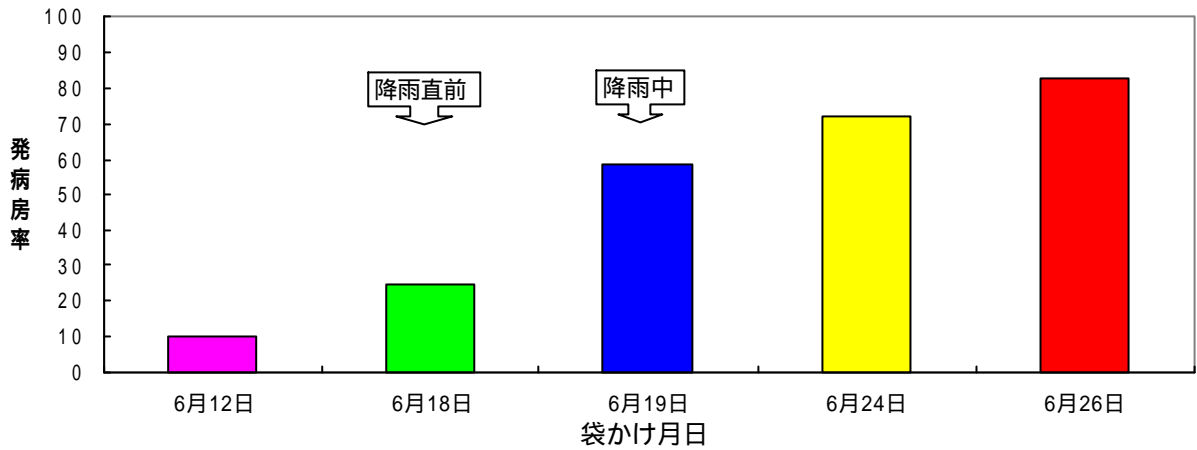
福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の送付について

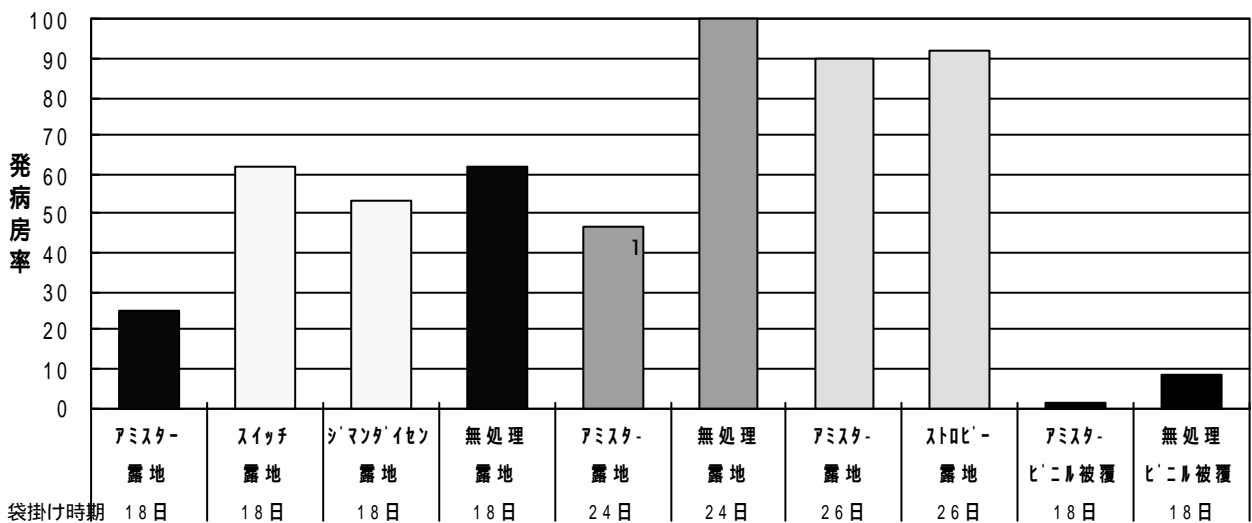
このことについて、病虫害発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察注意報第3号

- 1 対象作物 ブドウ
- 2 病虫害名 晩腐病
- 3 発生地域 県下全域（露地栽培）
- 4 発生程度 多い
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) ここ数年間発生が増加しており、特に昨年多発した露地栽培の巨峰園では、越冬菌量が多いと考えられる。
 - (2) 本病の孢子形成は5月上旬から始まる。特に梅雨期に形成量が多く、雨滴によって伝染する。
 - (3) 5月17日福岡管区気象台発表の1ヵ月予報によると、気温は平年並で、降水量は平年並か多く、天気がぐずつく時期があると予想されており、今後降雨が続くと孢子の飛散が盛んとなり、被害が多発する恐れがある。
- 6 防除上注意すべき事項
 - (1) 農総試の試験では、露地栽培で梅雨入り以降に袋かけをした園で発生が多く、袋かけが遅れるほど多発した（第1図）。本年は特に生育が早まっているので、袋かけを可能な限り早くする。また、降雨中や果房が濡れている状態の時は絶対に袋かけをしない。
 - (2) 落花直後と小豆粒大期に薬剤防除を行い、早めに袋かけをする。袋かけが遅れるほど薬剤の効果は低下する（第2図）。
 - (3) 発病した果実は見つけ次第取り除く。
 - (4) 薬剤は第1表を参照し、農薬安全使用基準（収穫前日数・使用回数）を遵守する。
 - (5) 園内の通風採光をはかり、園内が多湿にならないように排水に努める。
 - (6) 果実が成熟するほど発生が多くなるため、多発園では収穫を早めにする。



第1図 袋かけ時期の違いによるブドウ晩腐病の発生状況
 (2001年6月：福岡県農総試、品種：巨峰)
 開花直前(5/14)、落花直後(5/25)、小豆粒大期(6/4)にアミスター-10フロアブルを散布



第2図 ブドウ晩腐病に対する各種農薬の防除効果
 (2001年6月：福岡県農総試、品種：巨峰)
 各薬剤とも開花直前(5/14)、落花直後(5/25)、小豆粒大(6/4)の3回散布
 ビニル被覆は3月下旬～6月下旬(袋かけ終了まで)

第1表 晩腐病防除薬剤一覧表 (平成14年度福岡県果樹病害虫防除基準)

系統	薬剤名	濃度	使用基準	
			収穫前日数	回数
ストロビルリン	アミスター-10フロアブル	1,000	4 5	3
有機硫黄	シマンタイセン水和剤	1,000	6 0	2
〃	ペンコセブフロアブル	1,000	6 0	2